



人とロボット

多品種少量生産における自動化の次の一手として、
安全柵なしで使える「協働ロボット」への期待が高まっている。
省スペースで設置できる協働ロボットなら、
ラインレイアウトを大きく変えることなく、人の近くで部品を組み立てたり
重いワークをハンドリングしたりといった作業をさせられるからだ。
国際規格や法規の改正で次々と新しい協働ロボットが登場し、
生産現場での活用も始まった。人とロボットが同じ空間で二人三脚で働く——。
そんな新しい工場の姿が見えてきた。（野々村 洸、吉田 勝）



二人三脚工場

Part1 総論 ...p.38

協働ロボットで進める「軽薄短小」
安全に対する考え方も深化

Part2 活用事例 ...p.42

〔ファナック〕重筋で危ない作業を肩代わり

〔日立アプライアンス〕炊飯器のセル生産の一部を自動化

〔資生堂〕検品は人、単調な箱詰めはロボ

Part3 技術動向 ...p.50

各社が磨く協働ロボットの強み
技術から見る生産現場の未来

Part4 数字で見る現場 ...p.59

9割が協働ロボ導入拡大と予想
最大のネックは「価格」